

大歳神社

大歳神社は 718 年の創建と言われ、現在の本殿は 1690 年に建立されました。ご祭神は大歳大神、石作大神、豊玉姫命です。大歳大神は時の流れを司り、農耕と五穀豊穰の神とされています。また、厄除けの神としても信仰を集めています。石造大神は代々石棺などを製作してきた豪族の祖神です。1 世紀、日本の第 11 代天皇である垂仁天皇の妻である皇后が崩御した際、この一族は石棺を献上し、天皇から「石作大連」という非常に名誉ある官位を意味する姓を賜ったと言われています。海の神の娘である豊玉姫命は、日本の初代天皇である神武天皇の父方の祖母であると信じられています。

秋祭りと境内

神社の秋祭は 10 月の第 3 日曜日に行われ、氏子によって、祈祷やさまざまなご進物が奉納されます。江戸時代（1603 年～1867 年）中期以降、平和と繁栄の祈りを込めて能楽の金剛流宗家による、古くから伝わる神聖な演目「翁」を奉納してきました。最近では、それに続き「栢の森」というもう一つの謡も披露されるようになりました。境内にはかつて針葉樹の栢が多く生い茂っていたことから、古くから「栢の森」と呼ばれています。その昔、境内の栢の実から絞った油は燈明の燃料として使用されていました。今でも境内にいくつかの栢の木が見られ、神社のかつての姿を取り戻すために苗木が植えられています。